

TSUDOI

スタンダードプラン
週次レポート

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆TOP銘柄分析ガイド

今週の急上昇銘柄分析、上昇理由と将来予測

◆狙い目：中堅銘柄発掘ガイド

世界トレンド銘柄の分析

◆大穴：新規銘柄発掘ガイド

CMC新規リスト銘柄分析

◆調査銘柄 早見表

TOP	 Hyperliquid	 Ethena	 Mantle
中堅	 Pump.fun	 Pyth Network	 Plume
新規			

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術」](#)をご覧ください。



とは

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。こちらのマークを付与した銘柄のみ、AIによる相場分析の情報も記載しております。



有料
レポート

週次トークン価格高騰 TOP銘柄

トップ銘柄 分析ガイド 9/12

本分析ガイドは、Coinmarketcap（CMC）サイトにて、7日間を通してトークン価格が最も高騰もしくは下落したTOP銘柄を調査し情報を提供するものですが、今週は、中堅銘柄同様、検索トレンドを中心に話題となっている銘柄を週次でまとめて分析となっています。この分析から、市場で何が起こったのか、どの銘柄が注目されているのかを把握することができます。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#11	 Hyperliquid	DEX	¥2,732,584,635,076	¥8,183.15	—	21.63%
#26	 Ethena	Stablecoin Protocol	¥798,668,561,935	¥115.93	—	11.48%
#28	 Mantle	Layer2	¥775,011,358,144	¥238.24	—	46.85%

TOP銘柄チャート

上記画像は、Coinmarketcap（CMC）で記載されている7日間の価格推移を表示したチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、+3.11%となっております。





参照元：Coinmarketcap

銘柄の価格高騰要因(考察)



とは

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

Hyperliquid：HYPE（GOOD）

本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。

注目ポイント：USDH発行権競争と機関投資家支持

HYPEトークンは史上最高値\$55に到達し、機関投資家からの資金流入の加速が見込まれています。9/8 VanEck（米大手資産運用会社）やLion Group（Nasdaq上場企業の財務戦略）の支持表明も追い風となっています。9/14には自社ステーブルコイン「USDH」の発行権が決定予定で、本銘柄自体は規制リスク回避のため外部発行者を選定する方針です。収益還元率と導入時期がエコシステムの価値移転に直結するため、選定後はユーザー基盤の拡大と手数料収益の積み上げが中長期の評価軸になります。

価格はすでに高騰しているため、新規購入のタイミングについては慎重な検討が必要。

AIによる相場分析：HYPE

HYPEの価格は現在56.7ドル（約8,300円）前後で推移しており、短期的には57.0～58.0ドル（約8,350～8,500円）が上値の壁になっています。一方で55.0ドル（約8,050円）付近が支えとなりやすく、もし割れると52.0ドル（約7,600円）まで下げる可能性があります。流れとしては上昇が続いていますが、買われすぎの兆しもあるため、一時的な調整に注意が必要です。

Ethena : ENA (GOOD)

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：USDe拡大と大規模買い戻し

Ethenaのステーブルコイン 9/8「USDe」がBinance上場により流通額約13億ドルへ拡大し、ENAトークンも7ヶ月ぶりの高値を記録しています。プロジェクト収益をトークン買い戻しに回す 「Fee switch」機能が有効化され、すでに流通量の7.3%を買い戻し完了、さらに3.1億ドル分の追加買い戻しも予定されています。USDe利回りの維持と規制順守が続けば需給の引き締めが進み、利回り低下や買い戻し鈍化があれば需給の緩みが意識されます。Hyperliquid USDH入札の結果もトークン取引における需給に影響します。価格はすでに高騰しているため、新規購入のタイミングについては慎重な検討が必要です。

AIによる相場分析：ENA

ENAは現在0.78ドル（約114円）前後で推移しており、0.80ドル（約117円）を超えると0.84ドル（約123円）や0.90ドル（約132円）まで上昇が期待できます。一方で0.76ドル（約111円）を割り込むと0.74ドル（約108円）や0.70ドル（約102円）まで下がる可能性があります、この水準が今後の分かれ目となります。

Mantle : MNT

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：技術アップグレードと取引所提携

Mantleはネットワークをv2にアップグレードし、OP Stack（イーサリアム互換L2標準）とEigenDA（分散データ保管システム）を導入して手数料を約30%削減しました。TVL（ロック資産総額）は24億ドルに達し、9/9 大手取引所Bybitとの提携で機関投資家向けの“プライム・ブローカレッジ機能”などのサービスも拡充しています。このアップグレードが実際の利用増加に結び付けば評価の上振れが期待される一方、開発遅延やアクティブユーザー減少が続けば織り込みの剥落に繋がります。技術改善の実需転換が短期的な評価を左右します。

CMCサイト内 検索トレンド 狙い目：中堅銘柄

狙い目：中堅銘柄 発掘ガイド 9/12

このガイドでは、将来的に市場をリードする可能性を秘めた中堅銘柄を見つけるために、下記分析手法を採用しています。Coinmarketcap（CMC）における過去7日間の検索トレンドや訪問者数、RSIを分析し、注目を集めている中堅銘柄に関する情報を提供することです。

検索トレンド3銘柄

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#54	 Pump.fun	DEX	¥304,902,683,290	¥0.86	8.96倍 (HYPE比)	38.93%
#82	 Pyth Network	Oracles	¥146,146,502,793	¥25.41	16.31倍 (LINK比)	13.03%
#164	 Plume	Layer1	¥44,006,535,216	¥16.60	409.49倍 (SOL比)	41.28%

狙い目：中堅銘柄チャート

以下の画像は、CMCでの7日間の価格推移のチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、+3.11%となっております。





参照元：Coinmarketcap

検索トレンド中堅銘柄 注目要因(考察)



TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、
とは 価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

Pump.fun：PUMP

本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。

注目ポイント：主要取引所上場と継続バイバック

9/10のBinance.US上場でアクセスと流動性が大幅に向上。9/4実行の継続バイバック（自社トークンを市場から買い戻して流通量を減らす仕組み）で週間収益98.23%（\$12.19M）を投入し流通量を5.36%削減、資本効率とトークン需要の両面を支える。さらに9/4発表の「Project Ascend」（手数料体系を改善する大型アップデート）で手数料設計を最適化し、クリエイター収益性と取引回転の改善を狙う。取引所上場による一時的な価格上昇が落ち着いた後でも、トークンの買い戻しを続けることと、実際にプラットフォームがどれだけ使われているかが、長期的な価値を支える重要な要素となる。

Pyth Network : PYTH (GOOD)

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：機関向けデータ事業への転換

9/5発表の Phase 2（事業戦略の第2段階）で機関投資家向けサブスク型データ提供（月額課金でデータを販売する事業）へ軸足を移し、収益の一部を買い戻し・成長投資に循環。8/28発表の米商務省との連携実績やVanEck/Grayscale経由で\$1.2B資産流入の採用が信頼を補強。中長期的には、データ契約を獲得する数・顧客1社あたりの収益・実際に動いているデータの種類の増やすことと、新規トークン放出(2026年5月)を適切に管理してトークン価値の薄まりを防ぐことが、価格上昇の鍵となる。

AIによる相場分析：PYTH

現在のPYTHは0.18ドル（約27円）前後で推移しており、0.175ドル（約26円）が下支え、0.185ドル（約27円）が上の壁として意識されています。この壁を超えると0.20ドル（約30円）まで上昇余地が広がりますが、反対に0.175ドルを割れると0.16ドル（約24円）まで下がる可能性もあります。全体としては上向きの流れが優勢です。

Plume Network : PLUME (GOOD)

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：ネイティブUSDCとCCTP統合

9/4発表で CircleのネイティブUSDC（規制に準拠した公式の米ドル連動コイン）とCCTP V2（チェーン間でUSDCを簡単に移動できる技術）を統合し、規制対応の決済とシームレスな資産移動を実現。6月メインネット開始からTVLが441%増（4,400万→2.38億ドル）でRWA特化の基盤として機関のオンボーディング障壁を下げ、プロジェクト誘致を後押し。9/10発表のOctane社との戦略的パートナーシップでは、RWA（実世界資産）トークン化プロジェクトに機関グレードのAI駆動セキュリティ監視を提供。Octane社はCircle・Avalanche・Uniswap Foundationなど大手プロトコルが実際に採用するセキュリティプラットフォーム企業で、この連携によりPlume上でプロジェクトを作る開発者は大企業と同じレベルの高度なセキュリティ対策を利用でき、結果として銀行や保険会社などの大口投資家が安心してPlumeを使えるようになることが期待される。

AIによる相場分析：PLUME

PLUMEは現在0.115ドル（約17円）付近で推移しており、0.110ドル（約16円）前後が下支え、0.120ドル（約18円）付近が上の壁となっています。短期的には0.120ドルを超えると0.135ドル（約20円）～0.150ドル（約22円）を目指す動きが期待されますが、0.110ドルを割れると0.100ドル（約15円）まで下がる可能性もあり、押し目買いの好機と下落リスクが混在しています。

大穴：新規銘柄 発掘ガイド 9/12

このガイドでは、将来有望な「大穴銘柄」を発掘するため、CMC上で時価総額ランキング250位から500位に位置する銘柄を調査し、成長性の高い銘柄を選定する手法と、Tier1 VCが投資する銘柄の中から直近7日間で時価総額が急上昇したものを分析する手法を採用しています。大穴銘柄は、TOPや中堅銘柄の分析とは性質が異なり、時価総額が低いことから成長の幅が期待できる反面、リスクも伴うため、リスクリターンのバランスを慎重に判断する必要があります。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
今週該当する銘柄はありませんでした。						

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap： <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp： <https://www.coincarp.com/>
- Messari： <https://messari.io/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDOI

メールアドレス： info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>